

フッ素・昨日・今日・明日 ⑦

フッ化物応用
これからの課題
歯科医師会とF利用

や関連団体との連携、住民参加型歯科保健活動、臨床的にはフッオキシゲン、セメントなどという表現で求められてきた事柄と重なります。しかし、そこに対応する歯科医師側に欠けていたものは、他者の意見や反論、疑問が提起された時とこれまでそれを受容し、これまで自分の主張や論理を維持していくかどうで、意思伝達の方法論なども含む専門職としての基本的な姿勢(規範)ではなかったでしょう。

F利用をめぐる多くの問題が、

まずこの課題に対する態度は、まさにこのF利用は、日本におけるF利用は、

半世紀以上前から基本的に生じているフッ化物利用(以下、F利用)の実情、そして、

このほか、これからの歯科医師会にとってどのような意味を持つのかを、主要な課題として企画されました。

F利用は、その情報が日本にわたるそれがかい、20年代とされ、まさに近代歯科医療・保健の歴史として一貫してはななつた

と考えるF利用に対する歯科医師会の取り組みの変遷は、その時々を歯科界を取り巻く行政や地域住民の歯科保健・医療に対する風や姿勢、そして、何れも歯科医師自身の考えや行動のあり方を露微的に反映するものと言えるのではな

うです。8020運動に代表される日本の歯科保健活動は、今大きな視点の改革を求められていきます。その主要なキーワードは他分野との連

携であり、国民、地域住民と目線に立った方策の検討であると言えます。これらの課題は、これまでも行政(文責：日歯地域保健委員